

2022年度  
札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる  
事業報告

社会福祉法人はるにれの里

# 目 次

- |                    |   |
|--------------------|---|
| 1. 発達障がい支援センターの役割  | 1 |
| 2. 個別の支援件数（のべ）について | 1 |
| 3. 支援対象者について       | 1 |
| 4. 普及・啓発や連携について    | 2 |

## 1. 発達障害者支援センターの役割

札幌市自閉症・発達障がい支援センター（愛称おがる）は、「普及・啓発」「連携」「相談支援」「発達支援」「就労支援」の5つの機能を有している。近年では地域支援機能強化が求められており、「普及・啓発」や「連携」についての体制づくりが求められている。また地域支援マネジャーを配置し、困難ケースへの対応、地域支援体制作りをおこなっている。

## 2. 個別の支援件数（のべ）について

（1）札幌市内の個別の支援件数（のべ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談支援	65	58	59	67	75	65	53	58	54	49	59	50	712
発達支援	2	2	1	2	2	3	1	2	2	4	3	4	28
就労相談・支援	16	13	10	8	3	7	3	6	4	7	9	7	93
合計	83	73	70	77	80	75	57	66	60	60	71	61	833

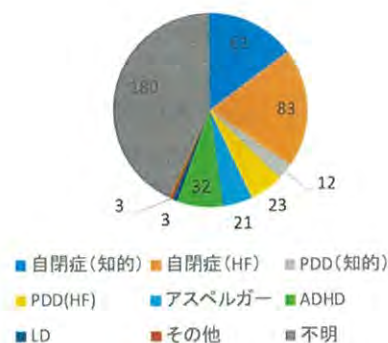
注：発達支援 ～発達検査などアセスメントにかんすること  
 就労相談 就労支援～実際の就労に向けた支援にかんすること

昨年度との数値を比較すると、「個別の支援件数（のべ）」は、ほぼ変更がない数字になっている。地域のコロナ事情を踏まえて、電話相談やオンラインでの相談（一部）等を整備して、相談を受けられる環境を整え、件数維持に努めた。

## 3. 支援対象者について

（1）対象者の障害種別内訳（リストより）

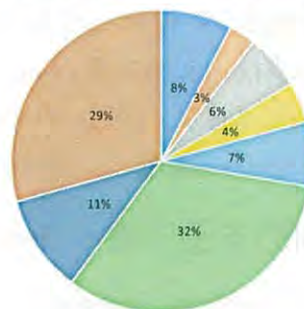
	相談	発達	就相	就支	合計
自閉症(知的)	62	2	1	2	67
自閉症(HF)	83	0	5	3	91
PDD(知的)	12	0	0	0	12
PDD(HF)	23	0	1	1	25
アスペルガー	21	0	1	4	26
ADHD	32	0	5	0	37
LD	3	0	0	0	3
その他	3	0	0	0	3
不明	180	2	9	3	194
合計	419	4	22	13	458



(2) 対象者の年齢層 (リスト)

	相談	発達	就相	就支	合計
0～3歳	32	0	1	0	33
4～6歳	12	0	0	0	12
小学生	25	2	0	0	27
中学生	18	0	0	0	18
16～18歳	29	0	0	0	29
19～39歳	136	1	15	8	160
40以上	44	0	2	3	49
不明	123	1	4	2	130
合計	419	4	22	13	458

0～3歳 4～6歳 小学生 中学生 16～18歳 19～39歳 40以上 不明



(3) 相談支援登録者数 (リスト)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録数	63	53	45	40	42	34	18	38	25	32	35	24	449

障害種別のデータを見ると、例年より、不明・未診断の数が減り、診断がある方の相談が増えている結果となった。

また、リストは当センターに登録された人数である。このリストの人数については、昨年とほぼ同じ数字になっている。また、対象者の年齢層でも成人期の相談が多いことは例年と同じである。

## 4. 普及・啓発や連携について

(1) 研修会

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	10	14	17	17	14	13	19	15	22	11	13	13	178
人数	103	319	895	418	911	467	364	336	478	164	580	250	5285

(2) 個別調整会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
おがる(マネ含む)	20	23	26	29	38	33	41	26	33	20	31	26	346
マネジャー	11	15	13	20	28	24	33	17	26	15	20	16	238

2

(3) 機関支援

機関支援数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
おがる(マネ含む)	32	36	16	23	6	9	6	4	6	4	5	10	157

機関支援回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
おがる(マネ含む)	40	70	71	93	65	85	86	63	52	73	67	71	836



#### (4) 各種調整会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
おがる(マネ含む)	11	10	16	7	7	10	10	12	11	10	10	10	124
マネジャー	6	4	12	5	4	6	5	5	4	4	6	6	67

研修に関しては、昨年から引き続き、新型コロナウイルスの影響があり、継続してオンラインでの研修など、例年とは違う方法も取り入れて事業を行った。研修会については実施回数178回という数が出ている。オンライン視聴型研修やYouTubeチャンネルの開設もあり、研修回数自体は昨年より少なくなっているが、より多くの方におがるの研修等に触れる機会を作ることができた。また、従来通りの集合研修も行うことができたので、参加人数は昨年度より多い参加人数になっている。オンライン視聴型研修も継続して多くの申し込みがあり、事業所での研修に活用される機会が増えた。おがるのYouTubeチャンネルは、公開動画も増やしてより多くの人にご視聴いただける機会を作ることができた。今年度も研修機会の確保のため、ニーズに合わせた開催方法をとってきた。

機関支援においては機関数157か所・延支援回数836回、個別の調整会議346回という結果で、オンラインも併用して行っている。オンライン等の工夫や地域支援マネジャーの設置により、例年よりも数が急増している。この数値は過去の数値の中でも高い数値になっている。

「普及・啓発や連携」はイベント開催の制限があるので、オンラインでのコンテンツ視聴型研修や発達障がい講座スタートを開始し、支援者向けの普及啓発として取り組んでいる。

「モデル実践」については、スタッフそれぞれの専門領域を生かして青年期の就労準備支援や早期療育などの事例に取り組んでいる。また、機関支援の効果を図るため、機関評価システムの作成や事業所の中核者に向けたモデル研修も実施している。今年度は例年に加えて保護者支援に関するアンケート調査と成人当事者への支援ニーズのアンケート調査を行い、次年度以降の企画を検討している。

地域支援体制強化の中では地域支援マネジャーが配置され機関支援や個別の調整会議などで主に触法ケースに関わっている。今年度は769件マネジャー業務としてケースに関わり、年々ケースの件数が上がっている。

その他には、発達障がい者支援地域協議会に協力し、発達障がいのある方やご家族への支援体制について、さまざまな分野を縦横断的に課題共有、情報整理をする場として運営した。

Table with 4 columns and 4 rows of faint text.

Text block containing several lines of faint, illegible text.

Text block containing several lines of faint, illegible text.

Text block containing several lines of faint, illegible text.

Text block containing several lines of faint, illegible text.

Text block containing several lines of faint, illegible text.

Text block containing several lines of faint, illegible text.

2022年度

(指定管理)

札幌市自閉症者自立支援センターゆい  
事業報告

社会福祉法人はるにれの里

# 目 次

## 1. はじめに

3 P

## 2. ゆい全体にかかわる事業報告

① ゆいの使命の実現のために

② ゆいバリューに基づく実践

(1) 『証』 根拠に基づくチャレンジをする

(2) 『和』 チームとして一流を目指す

(3) 『快』 きれいなゆいを常に目指す

(4) 『続』 最強の支援力はコツコツである

(5) 『安』 やわらかくおだやかな雰囲気のある職場でありたい

(6) 『暖』 私たちの好感度が上がれば、利用者さんの好感度も上がる

## 3. 各部署における事業報告

9 P

(1) Aブロック

(2) Bブロック

(3) Cブロック

(4) 生活介護

(5) 事務

(6) 医務

(7) 栄養

(8) 各委員会

作業委員会

環境向上委員会

人権推進委員会

余暇委員会



## 1. はじめに

はじめに

今年度もコロナウイルス感染の予防とその対策を全体で周知徹底していたが、8月9日に入所職員1名の感染が確認され、すぐに隔離やゾーニングなど可能な限り予防の対応策を講じた。基礎疾患を持つ利用者は生活の拠点を移っていただき対応した。その後8月13日に利用者1名の感染が確認されるが、以降もゾーニングやPPE対応を続けることで収束することができた。8月23日、11月18日にも、別ブロック職員1名の感染が確認されたが同様の対応を徹底することで、以降感染者が出ることなく感染拡大を防ぐことができた。また、1月末から入所エリアでコロナ感染が拡大し、2月中旬までの間隔離対応とした。その他、家族がコロナ感染するケースが散見されたが、いずれも法人指針に沿って家庭内隔離や自宅待機期間を設けることで、施設内の感染につながることはなかった。

これまでの間、直接対応に当たった職員や後方支援、調整に当たった職員など、関係者にあらためて感謝申し上げたい。

多くの生きづらさを抱える方たちへの支援について、特性の振り返りやチームで考える視点、支援を高めるための研修や学び、根拠のある個別支援計画作成と振り返りなど、『証』『和』『快』『続』『安』『暖』を柱として重要なポイントを整理する。

## 2. ゆい全体にかかわる事業報告

### ①ゆいの使命の実現のために

◇地域に戻るための取り組み

・地域移行に向けて

一昨年より、グループホームほしの窓の空き室に、ゆいの女性利用者1名が移行に向けたチャレンジをしていたが、コロナウイルス感染の状況を踏まえ一時中断している。その他、作業館などを利用し地域移行に向けた職住分離の取り組みについては、可能な限り進めた。

・グループホームよもぎの体験利用

新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ環境消毒を徹底し、利用を再開している。

・生活介護の新規利用者受入れに向けて

昨年度より利用していた男性1名が6月にグループホームへ移行されたが、7月末で退所されたため、9月より生活介護を再利用いただくこととなった。また、11月には、女性1名の受入れをおこなっている。1月にも新たに男性1名が利用いただくこととなり、送迎や対応職員の体制が大きな課題となっている。

・グループホームのサポート機能について

隣接する地域生活支援センターなないろが中心となり、近隣のグループホームのバックアップをしているが、職員体制の維持が大きな課題となっている。

毎月の会議でなないろとの連携を進め、当センターとしても可能なサポートを検討してきた。今後もサポート体制とあわせて、地域移行に向けた取り組みを着実に進めていきたい。

#### ◇地域の方々へのサポート

##### ・地域イベントへの積極的な参加

例年は、隣接地にある特別養護老人ホーム『ひかりの』さん主催の夏祭りに企画の段階から参加させていただいていたが、今年度もコロナウイルスの感染状況を踏まえ中止となった。また町内会の交流の場であったバーベキューについても中止となった。

10月に、ひかりのさんとなないろ合同で近隣のゴミ拾いを共同で実施し、若干ではあるが地域貢献につながる取り組みと同時に、関係者間での交流の場となった。

#### ◇地域への貢献

- ・コロナウイルスの感染状況を踏まえ、事前の検温やフェイスガード着用、環境消毒を徹底するなど感染予防を徹底し、短期入所の受入れを進めた。ご家族や支援者の見学や実習生の受入れも上記配慮の上で実施した。

## ②ゆいバリューに基づく実践

### (1)『証』 根拠に基づくチャレンジをする

#### ◇個別支援計画の運用

昨年より使用している書式で支援計画を作成している。利用者はもちろん、ご家族にも分かりやすく記載できるよう意識した。具体的には、専門用語を極力使わないことや、抽象的ではなく具体的な内容にするなどである。おがるから提供いただいた「みらくる」のアセスメントシートも参考に、今後の支援計画をよりニーズに沿ったものにしていきたい。

例年はご家族との懇談会を実施しての説明をおこなっていたが、コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、電話での説明も選択肢としてご家族に意向を伺った上で実施した。

#### ◇研修の活性化

・今年度もコロナウイルスの感染予防の観点から、全国の研修の多くがリモート研修に代わっている。法人としても3密を防ぐため、法人内研修はリモート中心としながらも、密を回避できる状況では集合研修も実施した。外部研修についても密を防ぐ前提で参加の判断をしている。

ゆい塾について全4回実施することはできたが、いずれも映像を各自視聴してもらう形をとった。これまでコロナ感染予防のため各チーム間の交流が滞ってしまう状況を緩和する一環として、今年度新たに「自分紹介」と称し、スタッフの人となりがいメージできるような動画も配信した。またサブリーダーが講師となつての動画を中心に展開し、あらためて社会人としての振る舞いや支援の振り返りをする機会とした。

《2022年 研修参加状況》

- ・強度行動障害支援者養成研修・・・ 6名参加（リモート）
- ・福祉施設職員向け研修・・・・・・ 2名（リモート1名）
- ・在宅栄養管理学会主催研修・・・・ 1名（リモート）
- ・権利擁護関係研修・・・・・・・・・ 3名（リモート）
- ・サービス管理関係研修・・・・・・・・・ 3名（リモート）
- ・法人内職群別研修（毎月）・・・・・・ 全職員リモート視聴
- ・ゆい塾を年4回（全て動画視聴）開催し、多くの職員が視聴した。
  - 1回目 自閉症の特性理解（講師 サブリーダー）  
 構造化について（講師 サブリーダー）  
 感染予防について（講師 環境向上委員会）  
 自己紹介（Cブロック）
  - 2回目 自閉症のコミュニケーションについて（講師 サブリーダー）  
 組織（社会）人としてのコミュニケーションについて  
 （講師 サブリーダー）  
 震災への対応について（講師 サブリーダー）  
 ゆいの事務手続き関係（講師 事務）  
 自己紹介（Bブロック）
  - 3回目 グループホームの暮らしに向けてQ & A・・・質問に回答  
 （講師 サブリーダー2名）  
 グループホームの実践例（講師 グループホームスタッフ）  
 自己紹介（生活介護）
  - 4回目 ゆいとして大切にしたいことの振り返り（講師 管理職）  
 各チームを振り返って（講師 各チームや委員会リーダー）  
 救急救命について（講師 環境向上委員会）  
 自己紹介（Aブロック／事務）

上記の他、環境向上委員会より『ゆいの衛生を考えよう』と題し、衛生の意味や、ゆいでの様々な状況や場面を想定した視点での分かりやすい説明動画や、他法人からの実習生にインタビュー形式で衛生環境についての紹介動画も視聴した。

## （2）『和』 チームとして一流を目指す

- ・今年度も年3回のチーム支援報告会を実施した。入所の各ブロックと生活介護でそれぞれチームで取り組める活動について検討し支援を進めた報告である。利用者のニーズや特性・配慮する点について、また業務の効率化を図るための視点などチーム全員で取り組めるよう職員からのアンケート結果をもとに実施している。また結果から見えた課題なども共有し、次の取り組みに繋げている。動画視聴ではあったがチームで取り組んだ内容の報告を互いに聞くことで良い刺激にもなっており次年度も継続していきたい。
- ・コロナ感染対策として、密の回避を前提としながら、月に最低1回は管理職も参加するユニットカンファや委員会の場を確保するように努めた。ほぼリモート



トでの開催となったが、次第に機器の取扱いにも慣れ、スムーズな話し合いができるようになったことは大きな収穫である。話し合われた内容は、関係者に周知徹底を図り、情報の共有をすすめた。

- ・ ケースカンファレンスについて、月に2回出勤者を増やし、スタッフミーティング日とユニットカンファレンス日を設定した。そうすることにより、チーム会議や各種委員会、個別のケースカンファレンスの時間に充てることが出来た。一方で、コロナ感染の状況からシフト調整が必要となる状況も多く計画的に進まない面もあった。
- ・ 4月に採用された新職員について、各チームの団結力や先輩バディの配慮により、新任職員も職場になじむことができている。また、新人職員だけのミーティングや先輩バディ職員のミーティングを実施し、意見の交換をおこなった。出された意見については次年度に繋げていきたい。
- ・ 既存の働き方の振り返りについて今までも議論を重ねてきたが、働き方や働きやすさについて等、働き方を見直すための『ゆい体制会議』を2カ月に一度開催した。コロナ感染の対応などもあり、開催できない月もあったが、利用者の活動や生活に支障が出ないように各チームのリーダーがリモートで会議に参加しゆい全体に関する協議を進めた。
- ・ リーダーやサブリーダーなど、それぞれの役割を明確にすることで意識すべきポイントが整理され、更には、マネジメントやリスク管理についても意識と責任感を持ってチームに還元できたと考えている。

### (3) 『快』 きれいなゆいを常に目指す

- ・ 環境向上委員会を中心に、環境美化を推進するだけでなく、具体的なイメージが持てるよう動画を配信し衛生面や危機管理についての啓発もおこなった。またコロナウイルスの感染に備え、ゾーニングのシミュレーションと共に必要な物品を揃えた。
- ・ 建物の修繕については、突発的な不具合など当初の計画どおりにいかないこともあったが、できるだけ速やかな復旧や補修に努めた。特に扉関係や鍵、ボイラーや配管の故障が多く、築年数による経年劣化が増えている。ケガや事故、異食のリスクも意識した対策を次年度も講じていきたい。
- ・ 活動場所の有効利用について、個別の配慮が必要な方に対して他ブロックのスペースや野菜館、作業館などを活用した一方で、職員が分散してしまうリスクもあった。コロナウイルスの感染予防の観点から、人流を避けるため予定通りに進めることが出来ない場面もあった。
- ・ ゆい親和会との活動について、コロナウイルスの感染予防の観点から当初の計画に沿ってすすめることはできなかったが、屋外で集合解散することを前提に10月の環境整備のみ開催することができた。会計監査については最少の人数でおこなっていただくことができた。  
ガーデンパーティーについては今年度も利用者の方のみの参加とし、感染予防を徹底した上で実施した。今年度は新たに全利用者参加型のレクリエーションの

要素を取り入れることができた。

(4) 『続』 最強の支援力はコツコツである

- ・ゆいの大事にしたい考え方の柱である「ゆいバリュー」について、権利擁護、利用者支援やチームとして、また社会人としても意識しておくべき内容であると考えている。年末に職員全体へのアンケートを実施し、1年を振り返っての反省や課題、そして課題改善のための提案を確認することが出来た。内容については運営コンファでも協議し、次年度のゆい指針に反映していきたい。
- ・人権推進委員会が中心となり、今年度もセルフチェックシートを活用し全職員からの意見を伺うことが出来た。内容について協議し、ポジティブな視点を意識したフィードバックをおこなった。
- ・余暇委員会主導で例年実施していた多くの職員が参加しての懇親会を企画することは出来なかったが、コロナ感染予防を意識し全職員が携わるきつねダンス動画を少人数ごとに撮影し完成することができた。
- ・業務意識や危機管理意識を高められるよう、事故が起きる前の予防的な視点として、ディスカバリー（発見）レポートの活用を進めてきた。レポートが出される時期や内容などを検証すると共に、報告については人権推進委員会が中心となり全体で共有した。大きな事故に繋がらないよう今後も意識を高めていけるよう啓発していく。

・コロナウイルス感染対策

北海道や札幌市の指針に沿って、法人の医療連携委員会を中心とした協議により、感染の予防については定期的に法人から指針が示され、それに沿った対応を実践している。職員自身の感染予防意識を高めるための啓発をおこなった他、具体的には3密を防ぐために、各種会議は最低人数の参加（情報の共有はしっかりとこなう）、手洗い・手指消毒の徹底やマスク着用、定期的な換気、毎朝の検温、体調不良の際の連絡などである。また、利用者ご自身での感染予防が難しいことから、混雑を避ける、手指消毒、手洗いやマスク着用のチャレンジもおこなった。

保護者への外泊や面会自粛、時期変更の依頼もさせていただき、多くのご理解とご協力をいただくことができた。その中で可能な方については、オンライン面会を実施するなど、ご本人・保護者へのニーズに寄り添いながら対応することもできた。これまでの新型コロナウイルスの感染を踏まえ、コロナワクチンの接種とあわせてより一層の感染予防を徹底し、持ち込まない・持ち出さない意識を継続させていく。

(5) 『安』 やわらかくおだやかな雰囲気のある職場でありたい

- ・職員のメンタルヘルスチェックについて、法人のメンタルヘルスプロモーション委員会として、またゆい内の人権推進委員会を中心にアンケートも実施した。法人主導のメンタルヘルスチェックについては各個人に結果がフィー



ドバックされた。ゆいはアンケート結果を踏まえ、傾向や対策などのフィードバックをすることができた。

・防災についての取り組みとして、以下の内容で実施した。

○救急救命法の実施

9月8日 13時～16時 ゆい体育館で実施 10名参加

○総合避難訓練の実施（日中想定）

消火、通報、避難誘導、消火器訓練

7月27日 Bブロック以外の全利用者、職員が参加

11月9日 Bブロック利用者、職員が参加

※コロナの影響でBブロックは7月27日の参加を控えた

○自衛消防訓練（夜間想定）

火災発報地区表示板を確認し、初期消火から避難誘導開始までの訓練

6月29日

○その他

震災訓練（水防） 9月28日

震災訓練（地震） 1月25日

緊急連絡訓練 8月27日、12月7日

災害備品確認 8月27日

○パソコンやプリンターの不具合や故障に関しては迅速な対応を心掛けた。サポート終了や、青い画面になってしまうようなパソコンについては、入れ替えをおこなった。次年度も状況に応じてパソコンの入れ替えを行っていききたい。

（6）『暖』 私たちの好感度が上がれば、利用者さんの好感度も上がる

◇一人の人間として高まる

○利用者プロデュース

昨年度までは利用者のアート作品を缶バッジやクリアファイル、ステッカー、ポケットティッシュとして商品化し販売をすすめた。また、「たい肥」作業の導入2年目を迎え、宣伝など関係する皆様のご協力をいただき約980kg販売することができた。作業に携わっていただいた方には還元金として工賃を支払っている。今後も更に作業工程を整理し、少しずつでも携われる方を増やしていきたい。

今年度は、利用者の皆さんが手掛けたアート作品をLINEスタンプで販売することができた。一部色付けや文字を入れるなど補助が必要なため、販売までに時間はかかるが、今後も継続していきたい。

◇社会人（職業人）として高まる

○重点化による取り組みについては、4か月ごとに重点テーマを決め、それに絞って徹底的に取り組んでいる。特に感染症の予防を意識できるような内容で啓発をおこなった。

○継続的な取り組みとして、月曜日から金曜日まで、曜日ごとに意識するポイントを決めて朝のミーティング時に周知するよう努めた。水曜日の「人権」を意識する曜日については人権推進委員会からの提案で、「利用者と同一目線で関わりましょう」など、より具体的な指標を示すことができた。また後期には、環境向上委員会から木曜日の「整頓・清掃」を意識する曜日についても、8項目に渡り具体的な指標を示すことができた。

#### ◇支援者として高まる

○今年度も、北海道知的障がい福祉協会の人権侵害ゼロへの誓いに対し、全職員が内容を確認し署名した。また、人権推進委員会よりグループウェアを利用して事故報告やディスカバリーレポートを都度周知し、事故の予見と防止に努めている。

○気取らずにすこしだけホッとする時間を持つという意味で、「ちょっとした話」の時間を月曜日から金曜日まで夕方のミーティングの際に設けていたがコロナウイルスの感染予防から、朝・夕の引継ぎは集まることなく施設内ネットワークで情報共有をおこなっている。そのため、話題となりそうな話しをメモで募り、署内グループウェア上でも不定期ではあるが展開することができた。

#### ◇地域とのコラボレーション

○ライラック町内会の主催するイベントは、コロナウイルスの感染により活動は全て中止となった。

○特別養護老人ホームひかりのさんと

ひかりのさんが例年主催する祭りは、コロナウイルスの感染予防の観点から中止となったが、10月にひかりのさん、なないろと合同で近隣のゴミ拾いを実施することができた。

その他、ひかりのさんが主催する合同運営推進会議も、コロナウイルスの感染状況に応じて、書面や不定期での集合開催となった。

### 3. 各部署における事業報告

#### (1) Aブロック

##### ①チーム支援について

2022年度は大きなところで利用者の新規活動や自発性を向上させることに焦点をあてた内容と、住環境の整理整頓のチーム支援をそれぞれ展開している。

○利用者の新規活動・自発性の向上支援について

普段の生活上では特定の自立課題を中心に実施している方ではあるが、自身の生活上でも役立つ活動として、洗濯物干しの新規活動を展開。最初はタオル干しから実施し、ステップに分けながら支援を展開。タオル干しの活動が出来ようになった後に自身の下着や靴下干しも実施。

また就寝前など、常時職員の次の指示待ちをしている利用者の方に対し、指示が無くても自身で就寝することが出来ないか？といった部分に焦点をあて、支援を展

開している。就床前のトイレ誘導後に就床シンボルを準備し、ご自身の目線に入りやすい位置でセッティング。その結果、ご自身でシンボルを手に取り、ご自身で居室の消灯をし、布団に入ることが出来ている。

#### ○住環境の整理整頓について

利用者が暮らしやすい、職員が働きやすい環境を目的に整理整頓をチーム分けして実施。利用者居室内の頑固な汚れへのアプローチや、共有スペースの整理整頓の実施。また、トイレ内や汚物処理室などの環境整備。指導員室の整理整頓を実施している。引き続き、綺麗な環境を維持出来るようにチーム内で意識をしていくこととする。

### ② 組みからその他の取り

#### ○リーダーグループ打ち合わせ

リーダーグループ内での打ち合わせとして、チーム全体の状況や日常業務などでもエラー等が生じていることを確認し、都度修正を試みている。また、現場内に業務内容の質問アンケートを展開し、集まった質問に対してリーダーグループで打ち合わせをし、Aブロック全体フィードバックしている。

#### ○コロナ禍での支援

引き続き、コロナ禍としてもQOLが下がらないように各担当で週末の余暇外出の内容や、日常生活での新規活動や過ごし方などを検討し、支援として展開している。

## (2) Bブロック

### ① チーム支援について

2022年度も3つのチーム支援を行っている。今年度は「住環境の整備」をテーマにユニット全体に関することから利用者一人ひとりの暮らしを振り返り課題と思えることをチームで話し合い解決に向け取り組みを行った。チーム内で意見を出し合うと40項目にもなりユニットとしての課題が見えてきた。

8月～11月期では各居室や共用エリアの生活臭に対してのアプローチ、衣類の見直し、居室掃除マニュアル及びチェックリストの整備をグループに分かれ展開している。この間、成果があがったこととして居室清掃があげられる。一番基本的な業務ではあるが毎日の環境職毒(ドアノブ、床消毒)に加え、各2部屋を日替わりで集中的に掃除することをルール化し、チェックリストを整備することで進捗状況を全体で共有できるようにした。また朝の引継ぎで毎日確認することで、清掃に対する意識づけを行った。ご本人の障がい特性により特に住環境の悪化が著しい方については個別でマニュアルを作成することで清掃方法やタイミングの統一を図った。チェックリストを整備したことで清掃の見える化が図られたこと、朝の引継ぎで清掃箇所を確認することでチーム支援終了後も引き続き職員一人ひとりが意識しながら業務することができている。今後も定期的に見直すことで継続して意識を高めていくことが大切であると実感している。

### ② その他の取り組み

引き続きコロナ禍という事もあり感染予防に努め日々の健康チェックなど職員一



人ひとりが徹底することを心がけた。また「施設に持ち込まない」という意識を啓発する為、出勤前の健康観察や体調が悪い場合に自身で判断せず必ず指示を仰ぐなど具体的にどうすべきかをチーム内で共有した。利用者支援に関しても「新たな生活様式」を模索しながらQOLの維持を意識した。週末の外出に関してはドライブスルーやテイクアウトを利用することで選択場面を保障している。またご家庭との新たな距離感の模索として、面会が困難な時期にはその代替えとして引き続きリモート面会を設定している。直接、お会いできない時期であってもテレビ電話をすることでご家族とのやり取りを保障している。

年度を通して、既存職員が自発的に取り組んでいることが非常に多く、Bブロック全体が着実に成長してきていると評価している。来期もこれを継続していき、更なる支援力の底上げに繋げていきたいと考えている。

### (3) Cブロック

#### ①チーム支援について

1つめのテーマは「利用者の発声の緩和をしていく」を実施している。職員への干渉が強く、それに伴い活動の停滞や他者の自傷などに発展していた。主に2チームに分かれ、環境面の再構造化、一人で楽しめる余暇や活動の充実などに取り組んでいった。環境面では、パーソナルカラーの変更や居室レイアウトの変更など実施していった。活動・余暇の充実では、アセスメントを取りながら本人にとって、アテンションが続く内容を見つけその情報を基に増やしていくこととした。他にも気分のリセットとして別エリアにスヌーズレンエリアを作成し、暗闇の中で音楽やイルミネーションを楽しめるように作成を行った。

2つめは「中庭を整理し余暇スペースにする・作業館での問題行動改善」を実施している。各チームに分かれ、中庭班ではまずは不要な物品の整理清掃を実施した。ニーズとして挙がっていた利用者を対象としてアセスメントを実施し、無目的な時間を有効な時間になるようにトランポリン・縄跳び・ハンモック・水やりなどアセスメントしながら導入実施している。今後雪解けを目途に本格的に実施していく。作業館では、利用者の逸脱行為や、物品の保持などを対象として対応の整理や施錠管理出来る扉の設置などを導入した。大きく効果見られ、物品の保持解消や指導員室への侵入回避なども出来ている。

3つ目は「ミラクルシートをみんなで活用してみよう」をテーマに実施している。ターゲットの利用者を決め、各チームに分かれニーズの見直し整理や、余暇のカテゴリ整理、課題となる問題への支援の組み立てなどミラクルのシートに落とし込み触れる機会を作った。他にもスキルチェックシートや支援まとめシートなど多くの書式を使い、学びを図った。

#### ③その他の取り組みから

今年度は、業務の効率化・支援の質向上・職員のモチベーションアップを目標に様々な取り組みを実践した。パソコンを使うにあたり、時間効率をよくするためブラインドタッチの練習を出来る環境を用意した。今後も苦手意識のある職員には率先して実施してもらい、業務の効率を図っていく。他にも支援の質を上げることを

目的としベトナムメイキングを動画撮影し一緒に情報共有しながらサービスの向上に努めた。モチベーションアップを図るため、毎月MVPを発表することし、ユニット職員間で職員の良い所や尊敬している部分などを称賛し合い、互いに学び支援の質の向上やモチベーションアップをしていけるように取組んだ。今後も前向きに職員が頑張れるように環境を整えていきたい。

#### (4) 生活介護

##### ① チーム支援について

今年度は、4月～7月期に行事の企画し、昨年より在宅利用者が中心になった為現在の生活介護利用者に併せた楽しめる行事を実施している。8月～11月期は1名の利用者を対象にチーム支援を実施、職員毎の対応を振り返りご本人が混乱しないよう対応の統一を図っている。12月～3月期は新規利用者受け入れを行った為、受け入れの準備から利用開始となるまでの流れをチーム内にて組み立てしている。

行事の企画と実施：昨年から在宅利用者中心となる生活介護がスタートし、安定した日中生活を送って頂けるよう取り組んできた。安定した生活を続けることは出来ているが、生活の中でより楽しめるような行事を昨年では組み立てることができなかった。今期にて全体的に利用者が楽しめるような行事をチーム内で話し合い計画を行っている。季節が夏に近くなっていたこともあり、アイスパーティーを行っている。様々なトッピングを準備して利用者毎に自らトッピングをして頂くことによって特別感が出るような行事を実施でき、参加された利用者も喜ばれている。食事以外に関する行事も今後企画していきメリハリのある日中生活を整えていく。

特定利用者への対応の統一：職員毎での対応の違いにより、不調時の表出の強さが異なるという状況が多く見られていたのと対応の違いによる混乱からストレス値が高くなり自傷行動に至ってしまう事もあった為、担当職員を中心にどのような表出が現在見られているか情報を集め、その表出に対しての適正な対応を表にまとめて現場内で周知をしている。新たに見られる表出に関しては、都度現場内で話し合いを実施し、表の更新も随時行っている。

新規利用者受け入れ：1月よりカラースのグループホームをご利用されている利用者が、新しい日中活動場所としてゆい生活介護での利用を開始している。元々利用されていた日中の事業所と情報のやり取りを行いご本人、ご家族、掛かりつけの医療機関、利用しているサービスなど様々な面からご本人の状態や状況などの情報を整理し準備を進め、ご本人の特性に併せた日中活動の提供を開始している。

##### ② その他の取り組み

引き続きコロナの感染拡大が見られている為、感染の予防と感染者が出た際に必要となる行動履歴の記録を徹底して行っている。職員一名がコロナウイルスに罹患されているが生活介護内での感染拡大はなく収束が出来ている。利用者へのサービス提供が滞らないよう、コロナウイルス感染対策を行っていく。

また、職員体制の変化により配置毎の負担が変わってしまった為過剰な負担がかからないよう配置の組み換えを行い、業務の調整を図っている。特定の利用者の



みの対応ではなく可能な限り生活介護内全体利用者に関わり、対応の経験や支援知識の向上に繋がっていきけるような配置バランスを引き続き整えていく。

## (5) 事務

### ①関係スタッフとの協働

- ・グループホーム利用者20名がなないろへ移行したことにより、ゆいの通所利用者は7名となったが、新たに2名の新規利用者を迎え計9名となった。引き続き新規利用者獲得に努め、収支改善に取り組んでいく。
- ・5月になないろ事務職の退職や管理職の人事異動に伴い、ゆい事務が一時的になないろとゆいの請求・東あしりGHの出入金管理と清算処理を行う事になった。その為の業務引継・同時に前年度12月に補充した短時間PTJへの会計処理の引継ぎがコロナ禍の影響もあり対面での作業が出来ない中、リモートや電話を利用することとなり、対応に苦慮した。6月になないろ事務が補充されたため、一時的に引き継いだ業務について、再度引き継ぎを行い、来年度にかけても引き継ぎをしていく予定となっている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策では、8月と11月に職員・利用者に陽性者が出てユニット閉鎖対応をすることとなったが、感染が拡大することなく、衛生資材の調達、備蓄、分配などへも問題なく対応できた。

### ②その他の取り組みから

- ・施設設備については、前年より引き続き冷暖房設備に関わる配管の老朽による漏水修理工事・エレベータのバッテリー経年による交換作業・各ユニットの鍵扉の老朽化による慢性的な不具合への対応を入所利用者の生活への影響に配慮しながら施工を進めた。10月には施設全体のネットワーク環境の改善の為の改修工事を数日に分けて施工した。
- ・厨房設備では、配送業者の働き方改革のため、GW、お盆や年末年始など大型連休中の配送がなくなったことにより、冷凍保存の食材が増となり、従来の冷凍庫では保管しきれない事態が発生していた。老朽化もあることから札幌市へ依頼し、大型の冷凍庫へ入替することができ、年末年始の連休中も問題なく対応できた。

## (6) 医務

### ①関係スタッフとの協働

2022年度の目標として

1. 健康の維持・増進、衛生環境の充実の為に予防的な関わり方の促進に努める。
2. 対象者の増加や加齢含め健康管理へのニーズの高まりを踏まえ、業務整理に努めていく。

というのを目標とし、支援者や栄養士等また施設委員会と協力しながら日々業務にあたってきた。

例年同様年間を通じて2回の健康診断、毎月の定期往診（黒川メンタルクリニック2週に1回、すこやかクリニック月2回、北海道医療大学歯科往診月2回）、定期通院（氏家こどもクリニック月1回、口腔センター適宜、医療大歯科通院適宜、皮

膚科通院適宜等)、怪我等での臨時通院対応、インフルエンザ予防接種(11月実施)、コロナワクチン接種(3回目、4回目、5回目の設定・実施)、毎月の定期採血検査(概ね利用者ごと1~6ヶ月)をほぼ予定通りに実施することができている。日々の業務としても、異常の早期発見含めた体調管理、感染予防、多種の薬剤管理等を、随時医療機関や薬局、支援者とも協働し実施することで、目標達成に努めてきた。

今年も昨年同様コロナ感染の流行で、対策として緊急的に一定期間閉鎖やPPE対応を実施しなければいけない時期もあり、受診や検診等医療面の充実が図りづらい状況ではあった。ただ感染予防については、以前よりも意識の高まりを感じる事が多く、結果としてクラスターに至ることなく経過することができた。

次年度以降も「ウィズコロナ」の世界情勢は変わらないと思うが、引き続き感染対策としては、予防と蔓延防止に力を入れていければと考える。

## ②その他の取り組みから

生活に即した介護・支援のスキルアップを図るため、環境向上委員会とも連動しながら、より快適・安全で健康的な生活を提供するために活動してきている。今年度も誤薬対策、感染予防、救命救急や食事等による気道閉塞予防、口腔ケア等、健康や衛生管理について啓発活動や振り返りを行うことができたが、毎年新人職員を多く向かい入れている事もあり、今年度も継続していく必要があると考える。また日々の業務優先から業務整理が後手に回ることも多く、次年度も意識しながら取り組んでいきたい。

## (7) 栄養

### ① 関係スタッフとの協働

2022年度は給食委託会社ベネミールとの委託契約が2年目となりユニット協力のもと、作業のマニュアル化をベースに大きな事故なく配膳を行えたと感じている。引き続き利用者の特性を理解し健康の保持増進、生活習慣病予防を目標とし衛生管理に努め安全な給食管理を行う。

個人の身体状況の把握、関係スタッフと情報交換を行い必要とする支援を抽出しおおよそ3ヵ月ずつ経過観察を行い栄養ケア計画を作成し、評価を行った。早急な対応が必要な場合は関係者間で協議し改善策を検討している。

### ② その他の取り組みから

世界情勢より食材費の高騰がしばらく続くことが予想される。給食教材費単価確保のため使用食材の変更で対応していたが、食材費高騰対策特別支援金の目的を理解し、利用者が安心して継続的に食事サービスを楽しむ環境の整備に努める。

コロナ感染蔓延防止のため、使い捨て食器の補充、献立変更を行い、蔓延防止を第一に対応職員には負担をかけない安全な配膳方法を提供した。

非常事態に備え50×3食×3日間の食材と飲料の保管を行っており、咀嚼、嚥下に不安のある利用者に対応できる形態を心掛けている。



## (8) 各委員会

### 作業委員会

#### ① 利用者プロデュースの推進

- ・昨年度から販売実現に向け活動していたLINEスタンプは、はるゆいステッカーとしてリリース出来た。現在3種類のスタンプを販売中である。ゆい関係者に宣伝をしているため、今後は宣伝をする幅を拡大していきたい。

#### ② 作業

- ・たい肥作業は2022年時点で約1トン相当のたい肥を販売している。きのこ村よりたい肥の材料となる土を仕入れたり、その土を発酵させる攪拌作業を行い、来年度は今年度を超える量を販売していきたい。
- ・ウエス作業は仕入先より材料を譲り受けることが出来たため再開している。
- ・ウツボのパッケージング作業は仕入先「あるば」で材料を斡旋していただき、状況に合わせて実施している。
- ・ペットボトル分別作業は継続して実施している。

#### ③ その他の取り組みから

- ・昨年度分の作業収益より作業に関わった利用者さんへ還元金としてお渡しすることが出来たが、計算方法が複雑化してしまった。そのため、来年度に向けて還元金の基準はより計算しやすく利用者の作業能力に応じた方法を考えている。今年度も昨年度同様、多岐にわたる業務に対して明確な役割分担、効率的な運営などを積極的に行い組織力の向上を図っている。今後も業務の整理等を行い効果的、効率的な委員会運営を目指す。

### 環境向上委員会

#### ① 啓発活動

昨年度に引き続き、動画配信形式での啓発（水分摂取・衛生概念の啓発・気道閉塞）を行った。いずれの動画も担当職員で分担しながら新規でスライドを作成し、啓発する側も新規資料の収集等見聞を広めることができた。また、今まで水分摂取に関しては啓発ポスター配布で済ませていたところを、今年度は初めて動画形式へ発展させており、啓発分野の選定についてもマンネリ化を防いでいる。

#### ② 他法人とのコラボ動画作成

今年度は他法人の職員が数か月に渡りゆいでの実習を行っていたことから、感染症予防を主なテーマとして、コラボ啓発動画を作成。他法人の感染症対策や、衛生面での配慮等を発信することができた。

#### ③ その他の取り組みから

今年度は啓発分野としては初めて、【衛生概念の向上】を取り上げている。施設職員として忘れがちになってしまうと思われる視点を取り上げ、改めて配慮できる部分は取り組んでいけるよう発信している。

代わりに、今まで継続して行ってきた口腔ケアの啓発については、年間計画の都合上休止している。こちらについても利用者の口腔環境を清潔に保つため、次年度以降再度啓発項目として取り上げていきたい。

## 人権推進委員会

### ① 人権意識向上に関する啓発

「利用者対応に関するセルフチェック」を2回実施。1回目を行った後に結果についてフィードバックしている。自信を持って支援している項目と不安な思いがある項目についてそれぞれピックアップし人権意識を高められるような考え方等委員会のコメントとして広報を発行。2回目を行った後には1回目の結果との数値で変化があったか分析し、その結果についても広報を発行することでフィードバックを行い日々の利用者対応における振り返りをする機会となった。また虐待防止研修についてもオンラインで開催している。障がい者虐待について基本的な知識を学ぶことができた他、実際に発生した虐待の事例についても知る機会となった。

### ② メンタルヘルスに関する取り組み

こころの健康をテーマに意見交換を行う座談会を実施。利用者支援をする上で感じる喜びや大変さ等を参加した職員にお話いただき、互いに受容、共感することで少しでもポジティブに捉えることができ、リフレッシュしていただく機会となった。

また当日参加できなかった職員には座談会の様子を録画したものを視聴していただいた。

### ○その他取り組みから

令和3年度にゆい内で報告された事故やヒヤリハットについての類型別発生件数や、事故とヒヤリハットの発生割合について分析し、結果について広報を発行。

事故に関するリスクマネジメントの意識を高められるようなフィードバックとなった。

## 余暇委員会

### ① 余暇支援の推進

#### ・アート活動の推進

あらかるアート等の施設外展示及び施設内展示の作成に向けたアート募集の周知。年賀状デザイン作成。利用者作品の整理を実施した。

### ② 笑顔プロジェクト

・「笑顔プロジェクト」として「きつねダンス」をゆいの職員で踊り動画撮影及び作成を実施した。(約3年ぶり)

→ゆい全体へYouTubeにて配信。法人向けへの配信も検討している。

・今年度も親和会総会は中止。親和会向けの利用者動画作成の代替として、昨年引き続き利用者写真アルバムを作成しご家族向けに送付した。

### ③ その他の取り組み

・新しい取り組みである「ラインスタンプ」販売実現に向けた利用者アートの選定を随時開始していく。

→今年度は2セットの作成と販売が実現。

「ラインスタンプ」用のアート選定及び「ラインスタンプ」作成を継続し実施していく。

・職員懇親会の代替え案に関して検討課題である。

→職員の自己紹介動画等の案があがっているがゆい塾の内容と重複するため検討が必要。



統括会計責任者	出納員

札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 資金収支計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位: 円)

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
事業活動による収支	収入				
	《障害福祉サービス等事業収入》	250,033,000	257,685,382	-7,652,382	
	自立支援給付費収入	224,728,000	230,454,216	-5,726,216	
	介護給付費収入	224,728,000	230,454,216	-5,726,216	
	特例介護給付費収入				
	訓練等給付費収入				
	利用者負担金収入				
	補足給付費収入	2,800,000	2,572,422	227,578	
	特定障害者特別給付費収入	2,800,000	2,572,422	227,578	
	特定費用収入	18,011,000	18,537,987	-526,987	
	その他の事業収入	4,494,000	6,120,757	-1,626,757	
	補助金事業収入(公費)	1,600,000	5,617,660	-4,017,660	
	補助金事業収入(一般)				
	受託事業収入(公費)	92,000	131,097	-39,097	
	受託事業収入(一般)				
	その他の事業収入	2,802,000	372,000	2,430,000	
	(保険等査定減)				
	《私的契約事業収入》				
	実費負担金事業収入				
	《その他の事業収入》	19,875,000	19,874,700	300	
	その他の事業収入	19,875,000	19,874,700	300	
	補助金事業収入(公費)				
	補助金事業収入(一般)				
	受託事業収入(公費)	19,875,000	19,874,700	300	
	受託事業収入(一般)				
	その他の事業収入				
	《借入金利息補助金収入》				
	《経常経費寄附金収入》		30,000	-30,000	
	《受取利息配当金収入》		782	-782	
	《その他の収入》	2,928,000	2,824,439	103,561	
	受入研修費収入				
	利用者等外給食費収入	2,420,000	2,282,000	138,000	
雑収入	508,000	542,439	-34,439		
《流動資産評価益等による資金増加額》					
事業活動収入計(1)	272,836,000	280,415,303	-7,579,303		
支出	《人件費支出》	208,940,000	207,510,051	1,429,949	
	役員報酬支出				
	職員給料支出	131,052,000	132,188,326	-1,136,326	
	職員賞与支出	37,000,000	36,300,600	699,400	
	非常勤職員給与支出	5,251,000	5,157,961	93,039	
	派遣職員費支出				
	退職給付支出	7,311,000	7,310,830	170	
	法定福利費支出	28,326,000	26,552,334	1,773,666	
	《事業費支出》	40,609,000	41,036,446	-427,446	
	給食費支出	10,596,000	10,839,475	-243,475	
	介護用品費支出				
	保健衛生費支出	2,500,000	2,062,643	437,357	
	被服費支出	844,000	562,100	281,900	
	教養娯楽費支出	80,000	71,675	8,325	
	日用品費支出	1,200,000	1,308,770	-108,770	
	水道光熱費支出	19,725,000	21,102,747	-1,377,747	
	燃料費支出				
	消耗器具備品費支出	940,000	777,044	162,956	
	保険料支出	1,250,000	936,328	313,672	
	賃借料支出	2,574,000	2,509,662	64,338	
	教育指導費支出				
	葬祭費支出				
	車輛費支出	900,000	866,002	33,998	
	雑支出				

## 札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 資金収支計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位:円)

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
事業活動による収支	支 出				
	《事務費支出》	30,252,000	29,422,923	829,077	
	福利厚生費支出	564,000	563,530	470	
	職員被服費支出				
	旅費交通費支出	17,000	19,860	-2,860	
	研修研究費支出	254,000	246,593	7,407	
	事務消耗品費支出	1,489,000	2,014,434	-525,434	
	印刷製本費支出	500,000	407,538	92,462	
	修繕費支出	2,600,000	1,616,856	983,144	
	通信運搬費支出	1,700,000	1,443,443	256,557	
	会議費支出				
	広報費支出	144,000	127,600	16,400	
	業務委託費支出	19,100,000	19,222,452	-122,452	
	手数料支出	743,000	693,547	49,453	
	土地・建物賃借料支出				
	租税公課支出	100,000	74,000	26,000	
	保守料支出	2,767,000	2,734,500	32,500	
	渉外費支出	73,000	56,770	16,230	
	諸会費支出	201,000	201,800	-800	
	雑 支 出				
	《利用者負担軽減額》				
《支払利息支出》					
《その他の支出》	2,420,000	2,379,396	40,604		
利用者等外給食費支出	2,420,000	2,379,396	40,604		
雑 支 出					
《流動資産評価損等による資金減少額》					
資産評価損					
資産評価損					
徴収不能額					
事業活動支出計(2)	282,221,000	280,348,816	1,872,184		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-9,385,000	66,487	-9,451,487		
施設整備等による収支	収 入				
	《施設整備等補助金収入》				
	施設整備等補助金収入				
	設備資金借入金元金償還補助金収入				
	《施設整備等寄附金収入》				
	施設整備等寄附金収入				
	設備資金借入金元金償還寄附金収入				
	《設備資金借入金収入》				
	《固定資産売却収入》	1,600,000	1,600,000		
	土地売却収入				
	建物売却収入				
	構築物売却収入				
	機械及び装置売却収入				
	車輛運搬具売却収入	1,600,000	1,600,000		
	器具及び備品売却収入				
	ソフトウェア売却収入				
権利売却収入					
その他の固定資産売却収入					
《その他の施設整備等による収入》					
その他の収入					
施設整備等収入計(4)	1,600,000	1,600,000			



## 札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 資金収支計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位: 円)

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
施設整備等による収支	支 出				
	《設備資金借入金元金償還支出》				
	《固定資産取得支出》	1,830,000	1,848,070	-18,070	
	土地取得支出				
	建物取得支出				
	構築物取得支出				
	機械及び装置取得支出				
	車輛運搬具取得支出	1,830,000	1,830,400	-400	
	器具及び備品取得支出				
	ソフトウェア取得支出				
	権利取得支出				
	建設仮勘定取得支出				
	その他の固定資産取得支出		17,670	-17,670	
	《固定資産除却・廃棄支出》				
《ファイナンス・リース債務の返済支出》					
ファイナンス・リース債務の返済支出					
《その他の施設整備等による支出》					
その他の支出					
施設整備等支出計(5)	1,830,000	1,848,070	-18,070		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-230,000	-248,070	18,070		
その他の活動による収支	収 入				
	《長期運営資金借入金元金償還寄附金収入》				
	《長期運営資金借入金収入》				
	《長期貸付金回収収入》				
	《積立資産取崩収入》	3,824,000	3,824,465	-465	
	退職給付引当資産取崩収入	3,824,000	3,824,465	-465	
	長期預り金積立資産取崩収入				
	人件費積立資産取崩収入				
	修繕積立資産取崩収入				
	施設整備等積立資産取崩収入				
	備品購入等積立資産取崩収入				
	減価償却積立資産取崩収入				
	《拠点区分間長期借入金収入》				
	《拠点区分間長期貸付金回収収入》				
	《拠点区分間繰入金収入》				
	《その他の活動による収入》				
	その他の収入				
	差入保証金返還収入				
	その他の活動収入計(7)	3,824,000	3,824,465	-465	
	支 出				
《長期運営資金借入金元金償還支出》					
《長期貸付金支出》					
《積立資産支出》	3,655,000	3,651,135	3,865		
退職給付引当資産支出	3,655,000	3,651,135	3,865		
長期預り金積立資産支出					
人件費積立資産支出					
修繕積立資産支出					
施設整備等積立資産支出					
備品購入等積立資産支出					
減価償却積立資産支出					
《拠点区分間長期貸付金支出》					
《拠点区分間長期借入金返済支出》					
《拠点区分間繰入金支出》	6,000,000		6,000,000		
《その他の活動による支出》					
その他の支出					
差入保証金支出					
その他の活動支出計(8)	9,655,000	3,651,135	6,003,865		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-5,831,000	173,330	-6,004,330		
予備費支出(10)					
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-15,446,000	-8,253	-15,437,747		
前期末支払資金残高(12)	96,763,037	96,763,037			
当期末支払資金残高(11)+(12)	81,317,037	96,754,784	-15,437,747		

統括会計責任者	出納員

## 札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 事業活動計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日  
(単位: 円)

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増 減
サービス活動増減の部	【障害福祉サービス等事業収益】	257,685,382	247,676,784	10,008,598
	自立支援給付費収益	230,454,216	226,352,810	4,101,406
	介護給付費収益	230,454,216	226,352,810	4,101,406
	特例介護給付費収益			
	訓練等給付費収益			
	利用者負担金収益			
	補足給付費収益	2,572,422	2,825,290	-252,868
	特定障害者特別給付費収益	2,572,422	2,825,290	-252,868
	特定費用収益	18,537,987	18,057,608	480,379
	その他の事業収益	6,120,757	441,076	5,679,681
	補助金事業収益(公費)	5,617,660	41,000	5,576,660
	補助金事業収益(一般)			
	受託事業収益(公費)	131,097	28,076	103,021
	受託事業収益(一般)			
	その他の事業収益 (保険等査定減)	372,000	372,000	
	【私的契約事業収益】			
	実費負担金事業収益			
	【その他の事業収益】	19,874,700	19,874,700	
	その他の事業収益	19,874,700	19,874,700	
	補助金事業収益(公費)			
	補助金事業収益(一般)			
	受託事業収益(公費)	19,874,700	19,874,700	
	受託事業収益(一般)			
	その他の事業収益			
	【経常経費寄附金収益】	30,000		30,000
	【その他の収益】	237,865		237,865
	雑収益	237,865		237,865
サービス活動収益計(1)	277,827,947	267,551,484	10,276,463	
費用	【人件費】	206,701,905	206,343,998	357,907
	役員報酬			
	職員給料	132,188,326	129,996,643	2,191,683
	職員賞与	17,368,352	18,650,500	-1,282,148
	賞与引当金繰入	18,297,432	18,932,248	-634,816
	非常勤職員給与	5,157,961	4,553,540	604,421
	派遣職員費			
	退職給付費用	7,137,500	7,505,670	-368,170
	法定福利費	26,552,334	26,705,397	-153,063
	【事業費】	41,036,446	40,250,572	785,874
	給食費	10,839,475	10,595,897	243,578
	介護用品費			
	保健衛生費	2,062,643	2,850,719	-788,076
	被服費	562,100	1,065,760	-503,660
	教養娯楽費	71,675	68,872	2,803
	日用品費	1,308,770	1,158,754	150,016
	水道光熱費	21,102,747	16,833,844	4,268,903
	燃料費			
	消耗器具備品費	777,044	1,413,699	-636,655
	保険料	936,328	1,385,042	-448,714
	賃借料	2,509,662	3,741,532	-1,231,870
	教育指導費			
	葬祭費			
	車輛費	866,002	1,136,453	-270,451
	雑費			



## 札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 事業活動計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位: 円)

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増 減
サービス活動増減の部	費用			
	【事務費】	29,422,923	28,015,308	1,407,615
	福利厚生費	563,530	536,550	26,980
	職員被服費			
	旅費交通費	19,860	17,380	2,480
	研修研究費	246,593	84,280	162,313
	事務消耗品費	2,014,434	970,090	1,044,344
	印刷製本費	407,538	480,541	-73,003
	修繕費	1,616,856	2,473,117	-856,261
	通信運搬費	1,443,443	1,808,364	-364,921
	会議費			
	広報費	127,600	49,500	78,100
	業務委託費	19,222,452	18,488,802	733,650
	手数料	693,547	823,528	-129,981
	土地・建物賃借料			
	租税公課	74,000	105,580	-31,580
	保守料	2,734,500	1,981,320	753,180
	渉外費	56,770	34,456	22,314
	諸会費	201,800	161,800	40,000
	雑費			
	【利用者負担軽減額】			
	利用者負担軽減額			
	【減価償却費】	3,735,551	3,492,511	243,040
	建物減価償却費	1,379,247	1,379,247	
	構築物減価償却費	1,431,708	1,431,708	
	機械及び装置減価償却費	64,642	64,642	
	車両運搬具減価償却費	465,639	232,168	233,471
器具及び備品減価償却費	90,921	168,352	-77,431	
有形リース資産減価償却費				
ソフトウェア償却費	303,394	216,394	87,000	
無形リース資産減価償却費				
その他の減価償却費				
【国庫補助金等特別積立金取崩額】				
【徴収不能額】				
【徴収不能引当金繰入】				
【その他の費用】				
サービス活動費用計(2)	280,896,825	278,102,389	2,794,436	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-3,068,878	-10,550,905	7,482,027	
サービス活動外増減の部	収益			
	【借入金利息補助金収益】			
	【受取利息配当金収益】	782	795	-13
	【その他のサービス活動外収益】	2,586,576	2,566,985	19,591
	受入研修費収益			
	利用者等外給食収益	2,282,000	2,348,400	-66,400
	雑収益	304,576	218,585	85,991
	サービス活動外収益計(4)	2,587,358	2,567,780	19,578
	費用			
	【支払利息】			
	【その他のサービス活動外費用】	2,379,396	2,325,929	53,467
利用者等外給食費	2,379,396	2,325,929	53,467	
雑損失				
サービス活動外費用計(5)	2,379,396	2,325,929	53,467	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	207,962	241,851	-33,889	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	-2,860,916	-10,309,054	7,448,138	



# 札幌市自閉症者自立支援センターゆい拠点区分 事業活動計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位:円)

札幌市自閉症者自立支援センターゆい 【税込】

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増 減
特別増減の部	収 益			
	【施設整備等補助金収益】			
	施設整備等補助金収益			
	設備資金借入金元金償還補助金収益			
	【施設整備等寄附金収益】			
	施設整備等寄附金収益			
	設備資金借入金元金償還寄附金収益			
	【長期運営資金借入金元金償還寄附金収益】			
	【固定資産受贈額】			
	固定資産受贈額			
【固定資産売却益】	1,099,999		1,099,999	
土地売却益				
建物売却益				
構築物売却益				
機械及び装置売却益				
車両運搬具売却益	1,099,999		1,099,999	
器具及び備品売却益				
ソフトウェア売却益				
権利売却益				
その他の固定資産売却益				
【拠点区分間繰入金収益】				
【拠点区分間固定資産移管収益】				
【その他の特別収益】				
徴収不能引当金戻入益				
会計基準適用による過年度修正額				
特別収益計(8)	1,099,999		1,099,999	
費 用	【基本金組入額】			
	【資産評価損】			
	【固定資産売却損・処分損】	69,602		69,602
	土地売却損・処分損			
	建物売却損・処分損			
	構築物売却損・処分損			
	機械及び装置売却損・処分損			
	車両運搬具売却損・処分損	69,602		69,602
	器具及び備品売却損・処分損			
	ソフトウェア売却損・処分損			
権利売却損・処分損				
その他の固定資産売却損・処分損				
【国庫補助金等特別積立金取崩額】				
【国庫補助金等特別積立金積立額】				
【災害損失】				
【拠点区分間繰入金費用】		6,000,000	-6,000,000	
【拠点区分間固定資産移管費用】				
【その他の特別損失】				
特別費用計(9)	69,602	6,000,000	-5,930,398	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	1,030,397	-6,000,000	7,030,397	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	-1,830,519	-16,309,054	14,478,535	
前期繰越活動増減差額(12)	113,985,785	130,294,839	-16,309,054	
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	112,155,266	113,985,785	-1,830,519	
基本金取崩額(14)				
その他の積立金取崩額(15)				
人件費積立金取崩額				
修繕積立金取崩額				
施設整備等積立金取崩額				
備品購入等積立金取崩額				
減価償却積立金取崩額				
その他の積立金積立額(16)				
人件費積立金積立額				
修繕積立金積立額				
施設整備等積立金積立額				
備品購入等積立金積立額				
減価償却積立金積立額				
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	112,155,266	113,985,785	-1,830,519	





## 計算書類に対する注記

(拠点区分名称) 札幌市自閉症者自立支援センター

### 1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

① 建物・構築物・機械装置・車輛運搬具・器具及び備品・ソフトウェア: 定額法を採用している。

(2) 引当金の計上基準

① 退職給付引当金: 職員に対して将来支給する退職金として法人が負担する一般社団法人北海道民間社会福祉事業共済制度掛金相当額を退職給付引当金として計上している。

② 賞与引当金: 次年度6月賞与として支給する相当額を賞与引当金として計上している。

### 2. 重要な会計方針の変更

特になし

### 3. 採用する退職給付制度

独立行政法人福祉医療機構の社会福祉施設職員等退職手当共済制度及び一般社団法人北海道民間社会福祉事業共済制度に加入している。

### 4. 拠点が作成する計算書類等とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりになっている。

(1) 札幌市自閉症者自立支援センター

拠点計算書類(第1号の4様式、第2号の4様式、第3号の4様式)

(2) 拠点区分資金収支明細書(別紙3⑩)は省略。

(3) 拠点区分事業活動明細書(別紙3⑪)

① 施設入所支援サービス区分

② 生活介護サービス区分

③ 短期入所サービス区分

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
該当なし				
合計				

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金又は国庫補助金等特別積立金の取崩し

国庫補助金等特別積立金の取崩しの内容及び金額は以下のとおりである。

前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
該当なし			



## 7. 担保に供している資産

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
(基本財産)			
土地	0	0	0
建物	0	0	0
投資有価証券	0	0	0
(その他固定資産)			
土地	0	0	0
建物	35,794,500	12,051,995	23,742,505
建物附属	5,442,054	3,152,574	2,289,480
構築物	18,444,000	12,956,951	5,487,049
機械及び装置	570,690	443,697	126,993
車輛運搬具	5,239,590	3,866,788	1,372,802
器具及び備品	5,995,863	5,891,062	104,801
ソフトウェア	7,961,597	7,404,983	556,614
合計	79,448,294	45,768,050	33,680,244

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	40,404,525	0	40,404,525
未収補助金	732,000	0	732,000
合計	41,136,525	0	41,136,525

## 10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の 状態を明らかにするために必要な事項

該当なし

統括会計責任者	会計責任者	出納職員

## おがる拠点区分 資金収支計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位: 円)

おがる 【税込】

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
事業活動による収支	収 入				
	《障害福祉サービス等事業収入》	41,173,000	41,409,300	-236,300	
	自立支援給付費収入				
	介護給付費収入				
	その他の事業収入	41,173,000	41,409,300	-236,300	
	補助金事業収入(公費)				
	補助金事業収入(一般)				
	受託事業収入(公費)	41,173,000	41,409,300	-236,300	
	受託事業収入(一般)				
	(保険等査定減)				
	《その他の事業収入》				
	その他の事業収入				
	補助金事業収入(公費)				
	補助金事業収入(一般)				
	受託事業収入(公費)				
	受託事業収入(一般)				
	その他の事業収入				
	《借入金利息補助金収入》				
	《経常経費寄附金収入》				
	《受取利息配当金収入》		52	-52	
《その他の収入》	540,000	1,050,746	-510,746		
受入研修費収入					
利用者等外給食費収入					
雑収入	540,000	1,050,746	-510,746		
《流動資産評価益等による資金増加額》					
事業活動収入計(1)	41,713,000	42,460,098	-747,098		
支 出					
《人件費支出》	43,287,000	43,700,864	-413,864		
役員報酬支出					
職員給料支出	28,470,000	28,494,442	-24,442		
職員賞与支出	8,334,000	8,638,900	-304,900		
非常勤職員給与支出					
派遣職員費支出					
退職給付支出	623,000	623,000			
法定福利費支出	5,860,000	5,944,522	-84,522		
《事業費支出》	4,161,000	4,384,676	-223,676		
給食費支出					
介護用品費支出					
保健衛生費支出					
日用品費支出					
水道光熱費支出	2,231,000	2,344,750	-113,750		
燃料費支出					
消耗器具備品費支出	399,000	455,207	-56,207		
保険料支出	269,000	245,920	23,080		
賃借料支出	950,000	925,336	24,664		
教育指導費支出					
葬祭費支出					
車輛費支出	312,000	413,463	-101,463		
雑支出					

## おがる拠点区分 資金収支計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位: 円)

おがる 【 税込 】

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
事業活動による収支	支 出				
	《事務費支出》	2,475,000	2,059,201	415,799	
	福利厚生費支出	233,000	159,240	73,760	
	職員被服費支出				
	旅費交通費支出	207,000	251,900	-44,900	
	研修研究費支出	546,000	271,951	274,049	
	事務消耗品費支出	20,000		20,000	
	印刷製本費支出	136,000	152,514	-16,514	
	修繕費支出				
	通信運搬費支出	391,000	256,422	134,578	
	会議費支出				
	広報費支出				
	業務委託費支出	729,000	726,000	3,000	
	手数料支出	98,000	96,394	1,606	
	土地・建物賃借料支出				
	租税公課支出	40,000	70,900	-30,900	
	保守料支出	50,000	44,880	5,120	
	渉外費支出		3,000	-3,000	
	諸会費支出	25,000	26,000	-1,000	
	雑 支 出				
	《利用者負担軽減額》				
	《支払利息支出》				
	《その他の支出》				
利用者等外給食費支出					
雑 支 出					
《流動資産評価損等による資金減少額》					
資産評価損					
資産評価損					
徴収不能額					
事業活動支出計(2)	49,923,000	50,144,741	-221,741		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-8,210,000	-7,684,643	-525,357		
施設整備等による収支	収 入				
	《施設整備等補助金収入》				
	施設整備等補助金収入				
	設備資金借入金元金償還補助金収入				
	《施設整備等寄附金収入》				
	施設整備等寄附金収入				
	設備資金借入金元金償還寄附金収入				
	《設備資金借入金収入》				
	《固定資産売却収入》				
	土地売却収入				
	建物売却収入				
	構築物売却収入				
	機械及び装置売却収入				
	車輛運搬具売却収入				
	器具及び備品売却収入				
	ソフトウェア売却収入				
	権利売却収入				
	その他の固定資産売却収入				
《その他の施設整備等による収入》					
その他の収入					
施設整備等収入計(4)					



## おがる拠点区分 資金収支計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位: 円)

おがる 【 税込 】

勘定科目		予 算	決 算	差 異	備 考
施設整備等による収支	支 出				
	《設備資金借入金元金償還支出》				
	《固定資産取得支出》		10,810	-10,810	
	土地取得支出				
	建物取得支出				
	構築物取得支出				
	機械及び装置取得支出				
	車輛運搬具取得支出				
	器具及び備品取得支出				
	ソフトウェア取得支出				
	権利取得支出				
	建設仮勘定取得支出				
	その他の固定資産取得支出		10,810	-10,810	
《固定資産除却・廃棄支出》					
《ファイナンス・リース債務の返済支出》					
ファイナンス・リース債務の返済支出					
《その他の施設整備等による支出》					
その他の支出					
施設整備等支出計(5)			10,810	-10,810	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			-10,810	10,810	
その他の活動による収支	収 入				
	《長期運営資金借入金元金償還寄附金収入》				
	《長期運営資金借入金収入》				
	《長期貸付金回収収入》				
	《積立資産取崩収入》				
	退職給付引当資産取崩収入				
	長期預り金積立資産取崩収入				
	人件費積立資産取崩収入				
	修繕積立資産取崩収入				
	施設整備等積立資産取崩収入				
	備品購入等積立資産取崩収入				
	減価償却積立資産取崩収入				
	《拠点区分間長期借入金収入》				
	《拠点区分間長期貸付金回収収入》				
	《拠点区分間繰入金収入》	5,250,000	5,250,000		
	《その他の活動による収入》				
	その他の収入				
差入保証金返還収入					
その他の活動収入計(7)	5,250,000	5,250,000			
支 出					
《長期運営資金借入金元金償還支出》					
《長期貸付金支出》					
《積立資産支出》	880,000	879,120	880		
退職給付引当資産支出	880,000	879,120	880		
長期預り金積立資産支出					
人件費積立資産支出					
修繕積立資産支出					
施設整備等積立資産支出					
備品購入等積立資産支出					
減価償却積立資産支出					
《拠点区分間長期貸付金支出》					
《拠点区分間長期借入金返済支出》					
《拠点区分間繰入金支出》					
《その他の活動による支出》					
その他の支出					
差入保証金支出					
その他の活動支出計(8)	880,000	879,120	880		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	4,370,000	4,370,880	-880		
予備費支出(10)					
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-3,840,000	-3,324,573	-515,427		
前期末支払資金残高(12)	7,542,511	7,542,511			
当期末支払資金残高(11)+(12)	3,702,511	4,217,938	-515,427		

統括会計責任者	会計責任者	出納職員

## おがる拠点区分 事業活動計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位: 円)

おがる 【 税込 】

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増 減
サービス活動増減の部	収 益			
	【障害福祉サービス等事業収益】	41,409,300	41,047,300	362,000
	自立支援給付費収益			
	介護給付費収益			
	その他の事業収益	41,409,300	41,047,300	362,000
	補助金事業収益(公費)			
	補助金事業収益(一般)			
	受託事業収益(公費)	41,409,300	41,047,300	362,000
	受託事業収益(一般)			
	(保険等査定減)			
	【その他の事業収益】			
	その他の事業収益			
	補助金事業収益(公費)			
補助金事業収益(一般)				
受託事業収益(公費)				
受託事業収益(一般)				
その他の事業収益				
【経常経費寄附金収益】				
【その他の収益】				
雑 収 益				
サービス活動収益計(1)	41,409,300	41,047,300	362,000	
費用	費 用			
	【人 件 費】	47,066,136	37,293,062	9,773,074
	役員報酬			
	職員給料	28,494,442	24,923,760	3,570,682
	職員賞与	6,824,720	4,189,900	2,634,820
	賞与引当金繰入	4,300,332	1,814,180	2,486,152
	非常勤職員給与			
	派遣職員費			
	退職給付費用	1,502,120	1,249,160	252,960
	法定福利費	5,944,522	5,116,062	828,460
	【事 業 費】	4,384,676	3,297,678	1,086,998
	給 食 費			
	介護用品費			
	保健衛生費			
	日用品費			
	水道光熱費	2,344,750	1,870,427	474,323
	燃 料 費			
	消耗器具備品費	455,207	55,346	399,861
	保 険 料	245,920	214,500	31,420
	賃 借 料	925,336	1,016,592	-91,256
	教育指導費			
	葬 祭 費			
	車 輛 費	413,463	140,813	272,650
	雑 費			
	【事 務 費】	2,059,201	2,562,909	-503,708
	福利厚生費	159,240	185,990	-26,750
	職員被服費			
	旅費交通費	251,900	101,740	150,160
	研修研究費	271,951	821,849	-549,898
	事務消耗品費			
	印刷製本費	152,514	112,117	40,397
	修 繕 費			
	通信運搬費	256,422	430,386	-173,964
	会 議 費			
	広 報 費			
	業務委託費	726,000	715,330	10,670
手 数 料	96,394	98,717	-2,323	
土地・建物賃借料				
租税公課	70,900	34,500	36,400	
保 守 料	44,880	38,280	6,600	
渉 外 費	3,000		3,000	
諸 会 費	26,000	24,000	2,000	
雑 費				

## おがる拠点区分 事業活動計算書

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日  
(単位:円)

おがる 【 税込 】

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増 減
サービス活動増減の部	費用			
	【利用者負担軽減額】			
	【減価償却費】	-3,340	236,689	-240,029
	建物減価償却費	125,280	125,280	
	構築物減価償却費			
	機械及び装置減価償却費			
	車輛運搬具減価償却費			
	器具及び備品減価償却費	-128,620	111,409	-240,029
	有形リース資産減価償却費			
	ソフトウェア償却費			
	無形リース資産減価償却費			
	その他の減価償却費			
	【国庫補助金等特別積立金取崩額】			
	【徴収不能額】			
【徴収不能引当金繰入】				
【その他の費用】				
サービス活動費用計(2)	53,506,673	43,390,338	10,116,335	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-12,097,373	-2,343,038	-9,754,335	
サービス活動外増減の部	収益			
	【借入金利息補助金収益】			
	【受取利息配当金収益】	52	66	-14
	【その他のサービス活動外収益】	1,050,746	238,198	812,548
	受入研修費収益			
	利用者等外給食収益			
	雑収益	1,050,746	238,198	812,548
サービス活動外収益計(4)	1,050,798	238,264	812,534	
費用	【支払利息】			
	【その他のサービス活動外費用】			
	利用者等外給食費			
	雑損失			
サービス活動外費用計(5)				
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,050,798	238,264	812,534	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	-11,046,575	-2,104,774	-8,941,801	
特別増減の部	収益			
	【施設整備等補助金収益】			
	施設整備等補助金収益			
	設備資金借入金元金償還補助金収益			
	【施設整備等寄附金収益】			
	施設整備等寄附金収益			
	設備資金借入金元金償還寄附金収益			
【長期運営資金借入金元金償還寄附金収益】				
【固定資産受贈額】				
固定資産受贈額				



## おがる拠点区分 事業活動計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日  
(単位:円)

おがる 【税込】

		勘定科目	本年度決算	前年度決算	増 減
特別増減の部	収 益	【固定資産売却益】			
		土地売却益			
		建物売却益			
		構築物売却益			
		機械及び装置売却益			
		車輛運搬具売却益			
		器具及び備品売却益			
		ソフトウェア売却益			
		権利売却益			
		その他の固定資産売却益			
		【拠点区分間繰入金収益】	5,250,000	4,342,000	908,000
		【拠点区分間固定資産移管収益】			
		【その他の特別収益】			
		徴収不能引当金戻入益			
		会計基準適用による過年度修正額			
		特別収益計(8)	5,250,000	4,342,000	908,000
繰越活動増減差額の部	費 用	【基本金組入額】			
		【資産評価損】			
		【固定資産売却損・処分損】			
		土地売却損・処分損			
		建物売却損・処分損			
		構築物売却損・処分損			
		機械及び装置売却損・処分損			
		車輛運搬具売却損・処分損			
		器具及び備品売却損・処分損			
		ソフトウェア売却損・処分損			
		権利売却損・処分損			
		その他の固定資産売却損・処分損			
		【国庫補助金等特別積立金取崩額】			
		【国庫補助金等特別積立金積立額】			
		【災害損失】			
【拠点区分間繰入金費用】					
【拠点区分間固定資産移管費用】					
【その他の特別損失】					
		特別費用計(9)			
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	5,250,000	4,342,000	908,000
		当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	-5,796,575	2,237,226	-8,033,801
		前期繰越活動増減差額(12)	6,449,936	4,212,710	2,237,226
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	653,361	6,449,936	-5,796,575
		基本金取崩額(14)			
		その他の積立金取崩額(15)			
		人件費積立金取崩額			
		修繕積立金取崩額			
		施設整備等積立金取崩額			
		備品購入等積立金取崩額			
		減価償却積立金取崩額			
		その他の積立金積立額(16)			
		人件費積立金積立額			
		修繕積立金積立額			
		施設整備等積立金積立額			
		備品購入等積立金積立額			
		減価償却積立金積立額			
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	653,361	6,449,936	-5,796,575

統括会計責任者	会計責任者	出納職員

## おがる拠点 貸借対照表

(自) 令和 4年 4月 1日 (至) 令和 5年 3月31日

(単位：円)

おがる 【 税込 】

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
<b>【流動資産】</b>	5,098,427	8,496,784	-3,398,357	<b>【流動負債】</b>	5,180,821	2,768,453	2,412,368
現金預金	399,364	3,642,050	-3,242,686	短期運営資金借入金			
事業未収金	1,976,000	1,722,000	254,000	事業未払金	802,117	954,273	-152,156
未収金				その他の未払金			
未収補助金				支払手形			
未収収益				役員等短期借入金			
貯蔵品				1年以内返済予定設備資金借入金			
医薬品				1年以内返済予定長期運営資金借入金			
立替金		10,810	-10,810	1年以内返済予定リース債務			
前払金		22,834	-22,834	1年以内返済予定役員等長期借入金			
前払費用				1年以内返済予定拠点区分間借入金			
1年以内回収予定長期貸付金				1年以内支払予定長期未払金			
1年以内回収予定拠点区分間長期貸付金				未払費用	78,372		78,372
短期貸付金				預り金			
拠点区分間貸付金	2,683,063	3,099,090	-416,027	職員預り金			
仮払金	40,000		40,000	前受金			
その他の流動資産				前受収益			
徴収不能引当金				拠点区分間借入金			
				仮受金			
				賞与引当金	4,300,332	1,814,180	2,486,152
				その他の流動負債			
<b>【固定資産】</b>	8,919,845	7,791,135	1,128,710	<b>【固定負債】</b>	8,184,090	7,069,530	1,114,560
(基本財産)				設備資金借入金			
土地				長期運営資金借入金			
建物				リース債務			
定期預金				役員等長期借入金			
投資有価証券				拠点区分間長期借入金			
				退職給付引当金	8,184,090	7,069,530	1,114,560
				長期未払金			
				長期預り金			
				その他の固定負債			
(その他固定資産)	8,919,845	7,791,135	1,128,710	<b>負債の部合計</b>	13,364,911	9,837,983	3,526,928
土地				<b>純資産の部</b>			
建物	532,440	657,720	-125,280	<b>【基本金】</b>			
構築物				<b>【国庫補助金等特別積立金】</b>			
機械及び装置				<b>【その他の積立金】</b>			
車輛運搬具	1	1		人件費積立金			
器具及び備品	192,504	63,884	128,620	修繕積立金			
建設仮勘定				施設整備等積立金			
有形リース資産				備品購入等積立金			
権利				減価償却積立金			
ソフトウェア				<b>【次期繰越活動増減差額】</b>	653,361	6,449,936	-5,796,575
無形リース資産				(うち当期活動増減差額)	-5,796,575	2,237,226	-8,033,801
長期貸付金							
拠点区分間長期貸付金							
退職給付引当資産	8,184,090	7,069,530	1,114,560				
長期預り金積立資産							
人件費積立資産							
修繕積立資産							
施設整備等積立資産							
備品購入等積立資産							
減価償却積立資産							
差入保証金							
長期前払費用							
その他の固定資産	10,810		10,810				
				<b>純資産の部合計</b>	653,361	6,449,936	-5,796,575
<b>資産の部合計</b>	14,018,272	16,287,919	-2,269,647	<b>負債及び純資産の部合計</b>	14,018,272	16,287,919	-2,269,647

## 計算書類に対する注記

(拠点区分名称) 札幌市自閉症・発達障がい支援センター

### 1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

① 車輛運搬具・器具及び備品: 定額法を採用している。

(2) 引当金の計上基準

① 退職給付引当金: 職員に対して将来支給する退職金として法人が負担する一般社団法人北海道民間社会福祉事業共済制度掛金相当額を退職給付引当金として計上している。

② 賞与引当金: 次年度6月賞与として支給する相当額を賞与引当金として計上している。

### 2. 重要な会計方針の変更

特になし

### 3. 採用する退職給付制度

独立行政法人福祉医療機構の社会福祉施設職員等退職手当共済制度及び一般社団法人北海道民間社会福祉事業共済制度に加入している。

### 4. 拠点が作成する計算書類等とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりになっている。

(1) 札幌市自閉症・発達障がい支援センター

拠点計算書類(第1号の4様式、第2号の4様式、第3号の4様式)

(2) 拠点区分資金収支明細書(別紙3(⑩))は省略。

(3) 拠点区分事業活動明細書(別紙3(⑪))は省略。

### 5. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
該当なし				
合計				

### 6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金又は国庫補助金等特別積立金の取崩し

国庫補助金等特別積立金の取崩しの内容及び金額は以下のとおりである。

前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
該当なし			



## 7. 担保に供している資産

## 8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
(基本財産)			
土地	0	0	0
建物	0	0	0
投資有価証券	0	0	0
(その他固定資産)			
土地	0	0	0
建物	0	0	0
建物附属	1,252,800	720,360	532,440
構築物	0	0	0
機械及び装置	0	0	0
車輛運搬具	1,569,190	1,569,189	1
器具及び備品	2,855,561	2,663,057	192,504
合計	5,677,551	4,952,606	724,945

## 9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	1,976,000	0	1,976,000
合計	1,976,000	0	1,976,000

## 10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

## 11. 重要な後発事象

該当なし

## 12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当なし